

保健医療と福祉

問題 103 事例を読んで、A医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)によるBさんへの説明に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

C県で暮らすBさん(56歳、会社員)は、1年前より箸が持ちにくい、重いものが持てない等の症状が見られ、1か月前より休職していた。1週間前に自宅の階段から転落し、病院に救急搬送された。大きなケガはなかったものの、両下肢の筋力低下が著しく、歩行が困難となっており、外来の医師より難病の疑いがあるとの説明を受け、D神経内科医師を紹介され受診した。その結果、筋萎縮性側索硬化症(ALS)との診断結果を受けた。今後の療養生活の支援が必要と考えたAは、Bさんへ次のような説明を行った。

- 1 「難病の治療費については、育成医療が適用されます」
- 2 「「難病法」による医療費の自己負担は徴収されません」
- 3 「「難病法」により、医療費は公費優先となります」
- 4 「一定の条件の下で、「障害者総合支援法」による障害福祉サービスの対象となります」
- 5 「県内の難病相談支援センターのピアサポーターによる支援があります」

(注) 1 「難病法」とは、「難病の患者に対する医療等に関する法律」のことである。

2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 104 事例を読んで、受診した病院のA医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)による、この段階でのBさんへの説明として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Bさん(43歳、正社員)は、健康保険の被保険者であり、勤務する会社の倉庫での機械の入出庫や運搬に従事している。昨日、勤務中に会社の倉庫内でうっかり商品の機械を自分の足の上に落としてしまった。病院を受診した結果、左足の指2本を骨折と診断された。

- 1 高額療養費制度の説明
- 2 傷病手当金の説明
- 3 療養補償給付の説明
- 4 医療保険と労働者災害補償保険の違いの説明
- 5 公費負担医療制度の説明

問題 105 診療報酬制度に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護報酬改定の時期と診療報酬改定の時期が重なることはない。
- 2 混合診療が行われた場合、診療報酬は減額して支払われる。
- 3 診療報酬上で、社会福祉士の配置や関与が評価されているものがある。
- 4 DPC制度(DPC/PDPS)とは、診療報酬の出来高算定制度のことである。
- 5 診療報酬の全体の改定率は、社会保険診療報酬支払基金が決定する。

問題 106 医療倫理の4つの原則に含まれるもののうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 人間の尊厳
- 2 多様性の尊重
- 3 必要即応
- 4 正義
- 5 自律尊重

問題 107 「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン(2024年(令和6年)3月改訂版)」(厚生労働省)に沿った治療と仕事の両立支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ガイドラインでは、短期で治癒する疾病を対象としている。
- 2 支援は、事業者からの申し出により開始される。
- 3 医療機関の裁量で、労働者の疾病の情報を事業者へ提供することができる。
- 4 職場復帰支援プランは、医療ソーシャルワーカーが単独で策定する。
- 5 主治医等が就労継続困難と判断した場合、事業者は就業禁止の措置を取る必要がある。

問題 108 事例を読んで、「医療ソーシャルワーカー業務指針」に基づいた、A 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)の実践に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Bさん(38歳, 正社員)は、会社のラグビー同好会の練習で受傷し、病院に救急搬送され入院となった。主治医からBさんに、今後車いす生活となること、回復期リハビリテーション病棟へ転院する必要があることが説明された。しかし、経済的不安を抱えたBさんは自宅退院を訴えている。主治医から依頼を受けたAはBさんとインタビュー面接を実施することとなった。

- 1 まずは面接をリハビリ室で行う。
- 2 守秘義務の観点から面接内容については主治医に報告しない。
- 3 転院先の選定については、Aが判断する。
- 4 入院費、生活費などの問題解決について話し合う。
- 5 自宅への退院支援を行う。

(注) 「医療ソーシャルワーカー業務指針」とは、「医療ソーシャルワーカー業務指針(2002年(平成14年))」(厚生労働省健康局長通知)のことである。